

聖体礼儀

輔祭 君よ、祝讃せよ、

司祷者 父と子と聖神の国は崇め讃めらる、今も何時も世世に、

(詠) アミン

[大連禱]

輔祭 我等安和にして主に祷らん、

(詠) 主 憐めよ

輔祭 上より降る安和と我等が霊の救いの為に主に祷らん、

輔祭 全世界の安和神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祷らん、

輔祭 此の聖堂、及び信と慎みと神を畏る心とを以て、此に来る者の為に主に祷らん、

輔祭 教会を司る我等の主教(某)、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に祷らん、

輔祭 我が国の天皇及び国を司る者の為に主に祷らん、

輔祭 此の都邑と凡の都邑と地方、及び信を以て、此の中に居る者の為に主に祷らん、

輔祭 気候順和、五穀豊饒、天下泰平の為に主に祷らん、

輔祭 航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、虜となりし者、及び彼等の救いの為に主に祷らん、

輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るが為に主に祷らん、

輔祭 神や、爾の恩寵を以て、我等を助け救い憐み護れよ、

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主 爾に

司祭 (高声) 蓋凡そ光栄尊貴伏拝は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」



我が^{たましい}や、主を 讃め あげ よ、主や爾は 崇め讃めらる

我が^{たましい}や、主を 讃め あげ よ、我が 中 心 や、

その聖なる名を 讃め あげ よ、我が^{たましい}や、主を 讃め あげ よ、

彼が ことごとくのおん 恩 を わするる な か れ

かれは なんじが もろもろの 不法を ゆる し

なんじが もろもろの やまい を いや す もう えい は 父 と 子 と



【小連祷】

輔祭 我等復又安和にして主に祷らん、

(詠) 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主爾に

司祭 蓋爾は善にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」



【第2アンティフォン】 第145 聖詠

トロパリ1調のメロディによる arr.Nina Harada



我が^{たましい}霊や、主を^ほ讃めあげよ、我生けるうち

主を^ほ讃めあげよ、我^{いのち}生命あるうち 我が^かみにうたわん

ぼくはくよ 牧伯に依るなかれ 救うあたわざる^よ人の子に依るなかれ

いきた^{つち}彼息絶えれば 土にかえり およそ

かれが はかる ところは その日に 消ゆ

主は 永遠に 王とならん シオンや、^{なんじ}爾の^か神は

世々に 王とならん 今も^{いつ}何時も 世々に アミン

神の独生の子 並びに こ と ば や、 死せざる者にして 我等を

救わんがため 甘んじて 聖なる生神女 永貞童女マリヤより 身をと

神の性を^か易えずして 人となり 十字架に^く釘 打 た れ

死を^{もつ}以て 死を^ふ踏み破りし ハリストス ^{やぶ}か み や、 ^{せいさんしゃ}聖三者の

^い一 と し て 父と^{せいしん}聖神とともに ^{さんえい}讃美せられる 主 や、

我等 を す く い た ま え。

[小連祷]

輔祭 我等復又安和にして主に祷らん、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に
 司祭 蓋國と権能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、 (詠) 「アミン」



[第3アンティフォン] 真福九端 (マトフェイ5:3)

オビホード、トロパリ1調のメロディによる



泣く者は ^{さいわい} 福なり、／彼等は ^{なぐさめ} 慰を得んとすればなり。

溫柔なる者は ^{さいわい} 福なり、／彼等は 地を嗣がんとすればなり。

義に飢え渴く者は ^{さいわい} 福なり、／彼等は ^あ 飽くを得んとすればなり。

矜恤ある者は ^{さいわい} 福なり、／彼等は ^{あわれみ} 矜恤を得んとすればなり。

心の清き者は ^{さいわい} 福なり、／彼等は 神を見んとすればなり。

和平を行う者は ^{さいわい} 福なり、／彼等は 神の子と名づけられんとすればなり。

義の為に ^{きんちく} 窘逐せらるる者は ^{さいわい} 福なり、／天国は 彼等の ^{もの} 有なればなり。

人我が為に ^{なんじ} 爾等を ^{のし} 詬り ^{きんちく} 窘逐し、／爾等の事を ^{なんじ} 諷りて ^{いつわ} 諸の ^{もろもろ} 悪しき ^{ことば} 言を

言はん時は、^{なんじ}爾等^{さいわい}福なり。



第3アンティフォンの最後に、福音経などを捧持した輔祭、司祭、副輔祭、堂役などは決められた順序に従って至聖所から出てカフェドラの主教の前に並ぶ。

[小聖入]

輔祭 主に祈らん、

長輔祭 (福音経を左肩におき、右手にオラリをかかげて) 尊貴なる主宰や、聖入に祝福せよ。

主教 (黙唱ののち) 爾の聖者の入るは常に崇め讃めらる、今も何時も世世にアミン。

(主教福音経に接吻。主教ディキリ・トリキリを受け取る。)

輔祭 (福音経を掲げ、それで十字を描き) 睿智、謹みて立て。

神品全員で「来たれハリストスの前に Приидите をゆっくり歌う。輔祭福音経に炉儀。主教は福音経に向かって躬拝し、ディキリ・トリキリで祝福。主教ディキリ・トリキリで西、南、北、三方向の信徒を祝福。司祭はソレヤに残る。主教カフェドラから降りてアムウォンに上がるころ。

(詠)、「来たれハリストスの前に」を神品の歌にかぶせて歌い始める。



(詠)が「神の子、死より復活せし」を歌うころ、主教はディキリ・トリキリで信徒を祝福し、至聖所に入る。

トリキリを持つ長輔祭とともに、宝座、奉献台、高座、司祭に炉儀、ソレヤに出る。

司祭、宝座に接吻。主教王門、イコノスタス、教衆、信徒、左右のイコンに炉儀、至聖所に戻り、宝座、司祭輔祭に炉儀。

この間(詠)「イスポラ」を主教の動きに合わせて、ゆっくり、歌う。

イス・ポラ

ボルトニャンスキー 作曲

イス ポ ラ エ ティ デス ポ タ イス ポ ラ

エ ティ デス ポ タ イス ポ ラ エ ティ デス ポ タ

イス ポ ラ エ ティ デス ポ タ イス ポ ラ エ ティ デス ポ タ

[トロパリ]

トロパリ：その日の、①(神現)聖堂の、②成聖の、③コンダク：成聖の、「光栄」、その日の、④<神品が歌う>「今も」、(神現)聖堂の

①【神現聖堂のトロパリ】 1 調

主よ、なんじが イオルダンに 洗を受くるとき

聖三者の 敬拝は ^{けいはい} 顕れ ^{あらわ} たり けだし 父の ^{ちち} こえ

爾を証して 至愛の子と名づけ 聖神も 鳩の形に ^{あらわ} 顕れて

^{ことば} 言の確かなるを示せり。 あらわれて 世界を 照らしし

ハリストス かみよ 光栄は なんじに 帰す。

そのままつけて

②【聖堂成聖のトロパリ】 4 調

S
A
うへ おおぞら び すまい
爾は上の穹蒼の 美のごとく 爾の光栄の聖なる住居の
 T
B
した うるわ あらわ しゅうじん いのち ふっかつ
下なる美しきを とともに顕せり 衆人の生命 及び復活たる
 しょうしんじょ けんこ
主よ 生神女によりて これを世世に 堅固にし
 うち
その中に絶えず我等が爾に奉る祈禱を 容れたまえ

光栄は父と子と聖神に帰す

【聖堂成聖のコンダク】

S
A
しゅうしんじゃ けうかい は いたりて けいめいなる てん と けんれたり
衆信者を照らす 教かい は 至りて光明なる天と顕れたり
 T
B
われら そのうちに たちて 呼ぶ
我等 そのうちに 立ちて 呼ぶ
 しゅよ この いえを けんこにせよ
主よ このいえを 堅固にせよ

(神品が歌う)

今も何時も世世にアミン

【神現聖堂のコンダク】

コンダク 4調

主よ、爾は今日 世界に現 われ 爾の光は我等に印されたり

我等爾を承け 認めてう たう 近づき難き ひかり よ

爾、来たり、爾現れた ま え り

主教 蓋我が神や爾は聖なり、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も、

輔祭 主や敬虔なる者を救い、及び我等に聴き給へ。

(詠) 主や敬虔なる者を救い、及び我等に聴き給へ。

主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に 聴き た ま え

輔祭 世世に

(詠) アミン

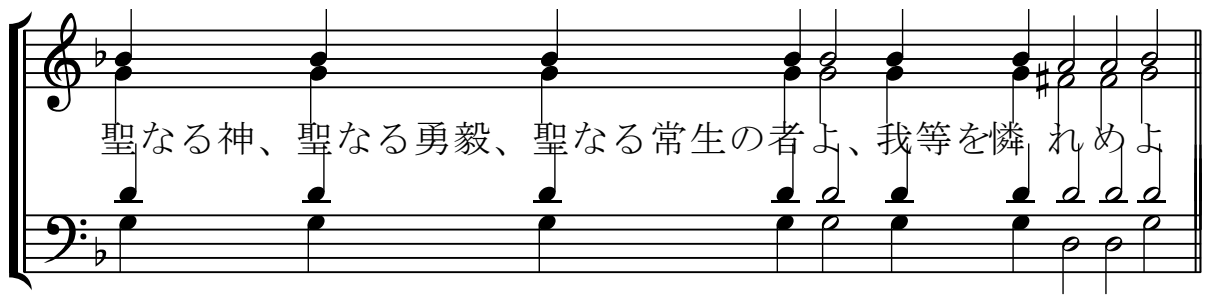
【聖なる神】 主教の動きに注意

1. 詠隊

聖 なるかみ 聖 なる勇毅 聖 なる 常生のものよ われらを あわれめよ

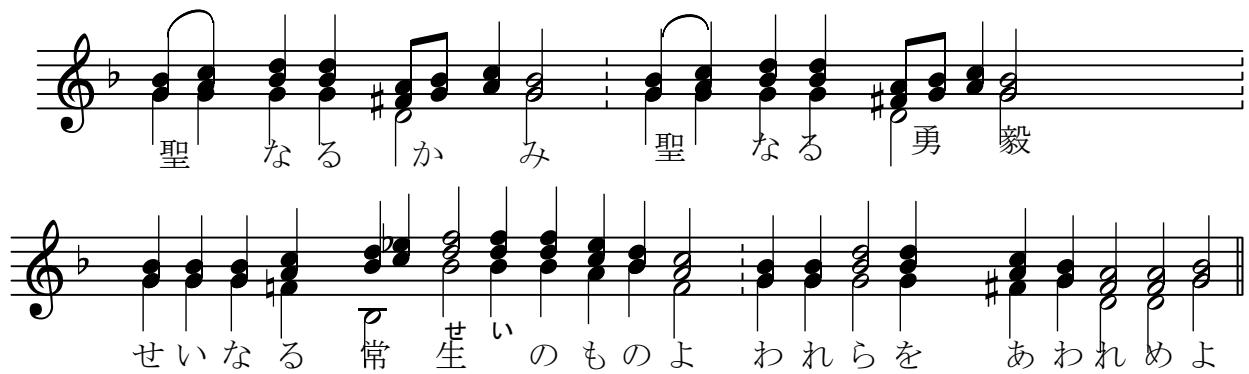
2. 神品 Святый Боже, Святый Крепкий, Святый Бесмертный, помилуй нас.

3. 詠隊(主教がソレヤに出てくるのに合わせて。)主教ディキリを持ってアンボンに出る。

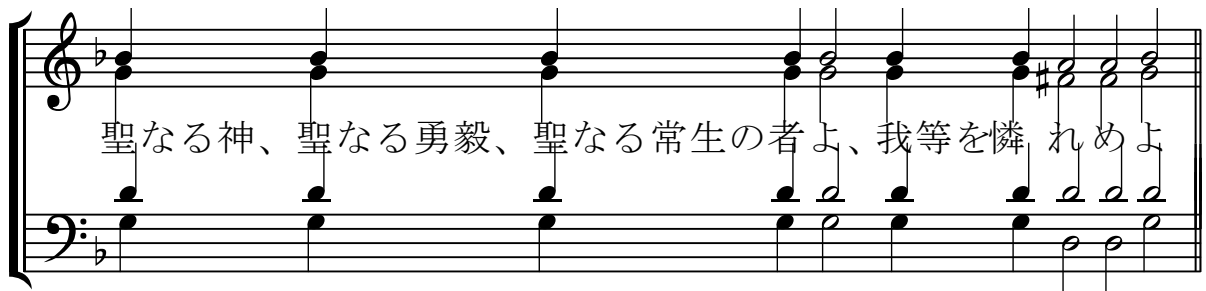


4. 主教祝文、聖詠 「神よ、天より臨み見て、この葡萄園に云々・・」。主教の降福。「聖なる神」のとき西、「聖なる勇毅」で南、「聖なる常生の者」で北。

(女声三部)

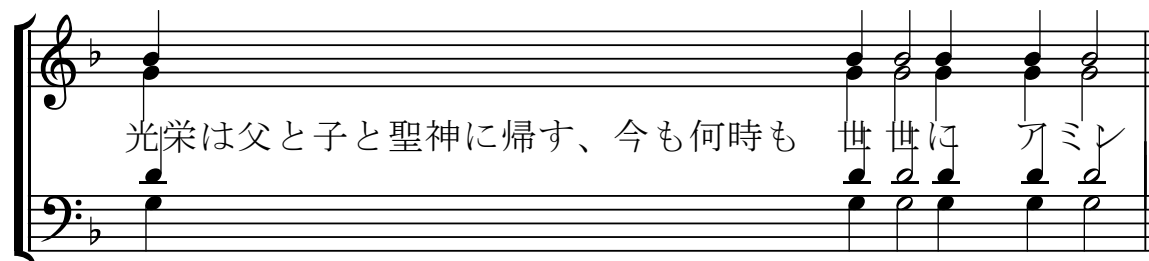


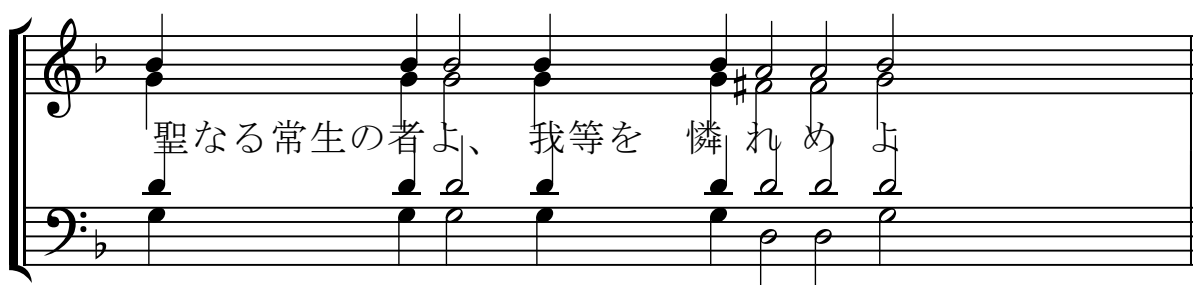
5. 詠隊 (速く軽く歌う)



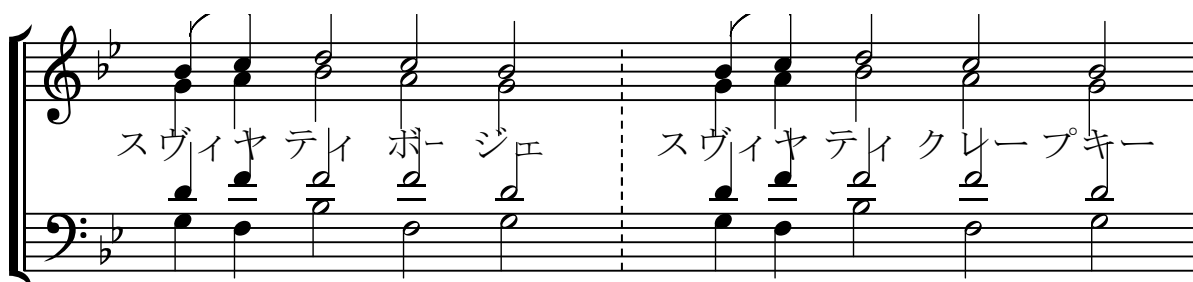
6. 神品は至聖所で「聖なる神」Святый Боже, Святый Крепкий, Святый Бесмертный, помилуй нас.

7. 詠隊 (速く軽く歌う)





8. 詠隊



【ポロキメン】成聖の、及び神現の

※注意 特別の形を取る。成聖のポロキメンを2回歌ったあと、神現のポロキメンを歌う。ポロキメンを二つ合体させた場合は誦経者詠隊の「半句ずつ」は行わない。

輔祭 謹みて聴くべし、

主教 衆人に平安、

誦経 爾の神にも、

輔祭 睿智

誦経 ポロキメン

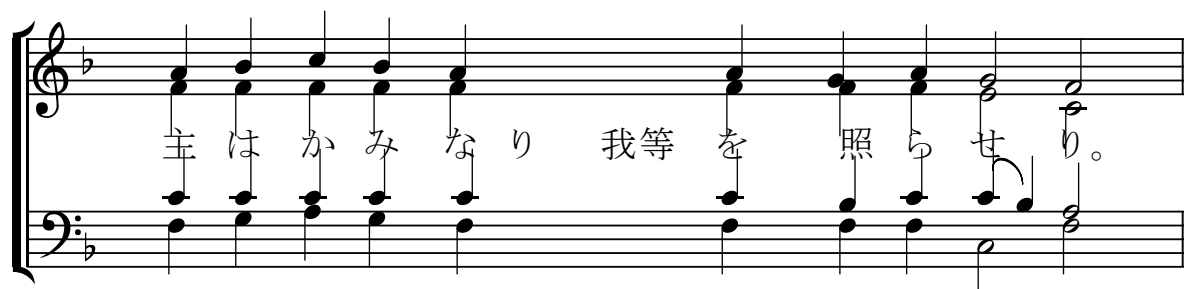
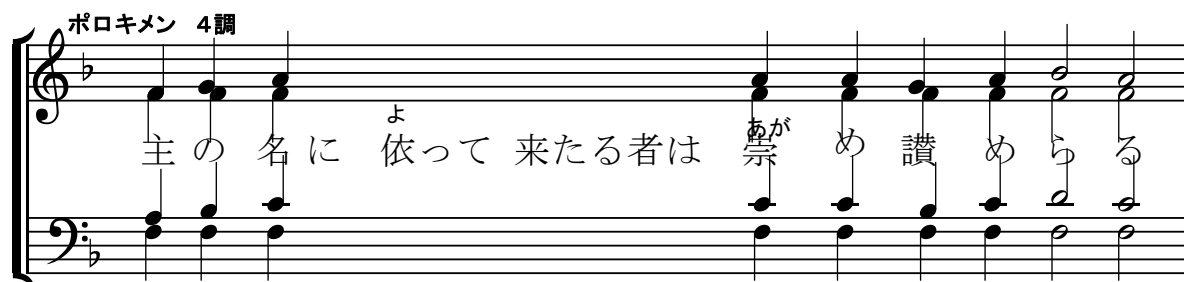
誦経 主よ、聖徳は爾の家に属して永遠に至らん（4調）



誦経（句）主は王たり、彼は威厳を衣たり、主は能力を衣、また之を帯にせり



誦経 主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。主は神なり、我等を照せり。



〔使徒経の読み〕

輔祭 睿智

誦経 聖使徒パウエルがエウレイ人に達する書の読み、

輔祭 謹みて聴くべし、

誦経 (使徒経を読む)

成聖の (エウレイ書 307 端)

聖なる兄弟、共に天の召に與る者よ、我等の承認の使徒及び司祭長たるイイススハリストス、彼を立てし者に忠信なること、モイセイが其全家に於けるが如くなる者を深く思へ。蓋彼が光栄を受くべきことの、モイセイに超ゆるは、家を造りし者の、家より尊きが如し。蓋凡の家は、之を造る者あり、惟萬有を造りし者は神なり。

(続けて) 成聖の (ティト書 302 端)

兄弟よ、神の恩寵、衆人に救を施す者は現れて、我等に、不敬虔と世俗の慾とを離れて、自ら制し、義と敬虔とを以て今の世に生を度り、望む所の福、及び大なる神、我等の救主イイススハリストスの光栄の現を待つことを教ふ。彼は我等の為に己を與へたり、我等を凡の不法より贖ひて、己の為に選ばれたる民、善行に熱心なる者を潔めん為なり。爾此等を言ひ、此等を勧め、

一切の権を以て責めよ、人をして爾を軽んぜしむる勿れ。爾彼等に、政を執る者及び権を有つ者に服し、且順ひ、凡の善行に己を備へ、人を誇らず、争はず、柔和にして、悉くの人に凡の溫柔を表さんことを、記念せしめよ。蓋我等も曩には愚なる者、順ばざる者、迷へる者、種種の慾と樂との奴隷たる者、怨恨娼疾を以て日を送りし者、惡むべき者又互に惡める者たりき。然れども我等の救主神の恩寵と仁愛との顕れし時、彼は我等が行ひし所の義の功に由るに非ず、乃己の慈憐に由りて、重生の洗、及び聖神の復新を以て、我等を救へり。聖神は、即神之をイイスス・ハリストス我等の救主に由りて、豊に我等に注げり、我等が彼の恩寵を以て義とせられて、望に循ひて、永遠の生命の嗣と為らん為なり。

〔福音前のアリルイヤ〕

主教 爾に平安

誦經 爾の神にも、アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、

(詠) アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、1 調 3 回繰り返す

アリルイヤ 成聖の 1 調

誦經 第 1 句 彼の基は聖山に在り、主はシオンの門を愛すること、イアコフの悉くの住所にまされり。

(詠) アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ

誦經 第 2 句 神の城邑よ、光榮は爾において伝えらる

(詠) アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ

〔福音經の読み〕

輔祭 君や、聖使徒及び福音者(イオアン)の福音を宣ぶる者に祝福せよ、

主教 願くは神、光榮にして讃美たる聖使徒及び福音者(イオアン)の祈祷によって、爾福音を宣ぶる者に多くの力ある言を賜はん、その至愛の子我が主イイススハリストスの福音の行るるが為なり。

輔祭 アミン、睿智、謹み立て、聖福音經を聴くべし

主教 衆人に平安

(詠) 爾の神にも

輔祭 (イオアン)による聖福音經の読み



輔祭 睿智、謹みて聴くべし。(福音經を読む)

成聖の(イオアン 37 端のなかば 10:23-28)

彼の時、イエ^{あらためのまつり}エルサリムに重修節あり、時方^{まき}に冬なり。イエスス殿に在りて、ソロモンの廊を歩めるに、イウデヤ人彼を環りて曰へり、爾何時までか我等を疑惑せしむる、爾ハリストスならば、明に我等に告げよ。イエスス彼等に答へて曰へり、我爾等に告げたり、而して爾等信ぜず、我の我が父の名に因りて行ふ事は、我が為に證を作す。然れども爾等信ぜず、蓋爾等は我に属する羊に非ず、我が爾等に言ひしが如し。我が羊は私の聲を聴く、我は彼等を識り、彼等は我に従ふ。我は彼等に永遠の生命を與ふ

神現の(マトフェイ6端。)

イエスス、ガリレヤよりイオルダンに來り、イオアンに就きて、之より洗を受けんと欲す。イオアン彼を止めて曰く、我爾より洗を受くべきに、爾我に就くか。イエスス答へて彼に謂へり、今姑く許せ、蓋我等は是くの如く凡の義を尽すべし。是に於て之を許せり。イエスス洗を受けて、直に水より上れるに、視よ、天彼の為に開け、神の神鴿の如く降りて、其上に臨むを見たり、且天より声ありて云う、之は私の至愛の子、我が喜べる者なり。



主教は高座から降り、王門を通してアムウォンに出る。長輔祭の持つ福音經に接吻。ディキリ・トリキリで信徒を祝福。このとき「イスポラ」を歌う。



〔重連禱〕

輔祭 我等皆靈を全うして曰はん、我等の思いを全うして曰はん、(詠) 主憐めよ
 輔祭 主全能者、吾が列祖の神や、爾に禱る聆き納れて憐めよ、(詠) 主憐めよ
 輔祭 神や爾の大なる憐れみに因りて我等を憐めよ、爾に禱る聆き納れて憐めよ、
(詠) 主憐めよ (3 回)

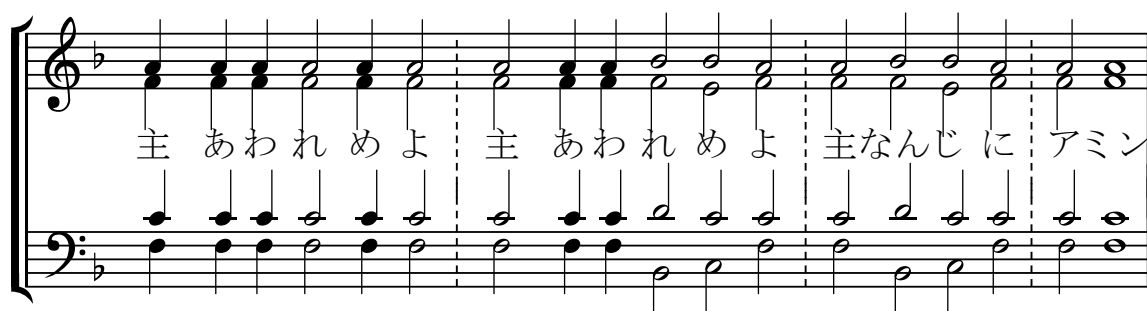
輔祭 我が國の天皇及び國を司るものの為に主に禱らん、
 輔祭 又教會を司る尊貴なる我等の東京の大主教全日本の府主教ダニイル及びハリストスに於ける
 悉くの我等の兄弟の為に禱る、
 輔祭 又我等の兄弟、諸司祭、諸修道司祭、及びハリストスに於ける我等の衆兄弟の為に禱る、
 輔祭 又恒に記憶せらるる福たるこの聖堂の建立者、及び已に寐りし悉くの父祖兄弟、此の處と諸方
 とに葬られたる正教の者の為に禱る、
 輔祭 又此の至尊なる聖堂に者を献り、善業を行ひ、之に勞し、之に歌ひ、及び此に立ちて爾の大
 いにして豊なる憐を仰ぎ望む者の為に禱る、
 司祭 蓋、爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何も世世に、
(詠) アミン



〔啓蒙者の連禱〕

輔祭 啓蒙者や、主に祈るべし、(詠) 主憐めよ
 輔祭 信者や、啓蒙者の為に禱らん、願くは主は彼等に憐を垂れん、
 輔祭 眞實の言を以て彼等を啓蒙せん、
 輔祭 義の福音經を彼等に啓かん、
 輔祭 彼等をその聖公使徒の教會に一にせん、
 輔祭 神や、爾の恩寵を以て、彼等を救ひ憐み佑け護れよ、
 輔祭 啓蒙者や、爾等の首を主に屈めよ、(詠) 主爾に
 司祭 願くは彼等も我等と偕に、爾父と子と聖神の至尊至榮の名を讃揚せん、今も何時も世世に、
(詠) アミン

輔祭 衆啓蒙者出でよ、啓蒙者出でよ、衆啓蒙者出でよ、啓蒙者一人もなく、唯信者またまた安和に
 して主に禱らん、(詠) 主憐めよ
 輔祭 神や、爾の恩寵を以て、我等を佑け救ひ憐み護れよ、(詠) 主憐めよ
 輔祭 睿智
 司祭 蓋、凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に帰す、今もいつも世世に、(詠) アミン



[信者の連祷]

輔祭 我等復又安和にして主に祈らん、(詠) 主憐めよ
 輔祭 上より降る安和と我等が霊の救の為に主に祷らん、(詠) 主憐めよ
 輔祭 全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祷らん、
 輔祭 此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来たる者の為に主に祷らん、
 輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に祷らん
 輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救い憐み護れよ、
 輔祭 叡智
 司祭 我等常に爾が権柄の下に護られて、光栄を爾父と子と聖神に献ずるが為なり、今も何時も世
 世に、(詠) アミン。アミン



[大聖入] ヘルビムの歌

ヘルウィムノ歌(第七)「ツアルスカヤ」

ボルトニャンスキ作曲

First system of a musical score in G major (one sharp). The melody is in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The lyrics are written below the notes. The system contains five measures.

Lyrics: ヘル ヲ ヲ ヘル ヲ カ タ

Second system of the musical score. It continues the melody and accompaniment from the first system. The lyrics are written below the notes. The system contains five measures.

Lyrics: テ イ サ ン

Third system of the musical score. It continues the melody and accompaniment. The lyrics are written below the notes. The system contains five measures.

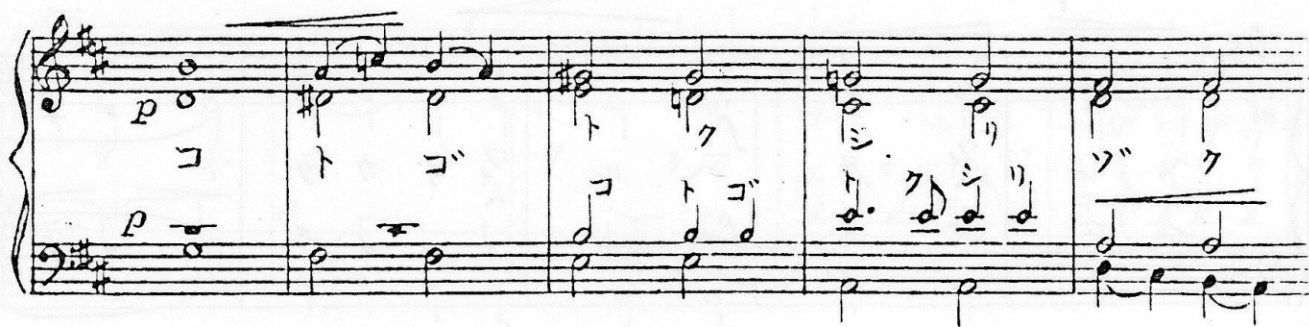
Lyrics: サ ン ノ ヲ タ ヲ イ ノ チ ヲ ホ ド コ ス

Fourth system of the musical score. It continues the melody and accompaniment. The lyrics are written below the notes. The system contains five measures.

Lyrics: サ ン シ ニ ヲ タ ヒ テ

Fifth system of the musical score. It continues the melody and accompaniment. The lyrics are written below the notes. The system contains five measures.

Lyrics: イ マ コ ノ ヲ ノ オ モ ン パ カ リ ヲ



ディスクスを持って

主教 願くは主神はその国に於いて、我が国の天皇及び国を司るものを常に記憶せん、今も何時も世世に、

主教 願くは主神はその国に於いて教会を司る我等の尊貴なる 主教、 を常に記憶せん、今も何時も世世に、

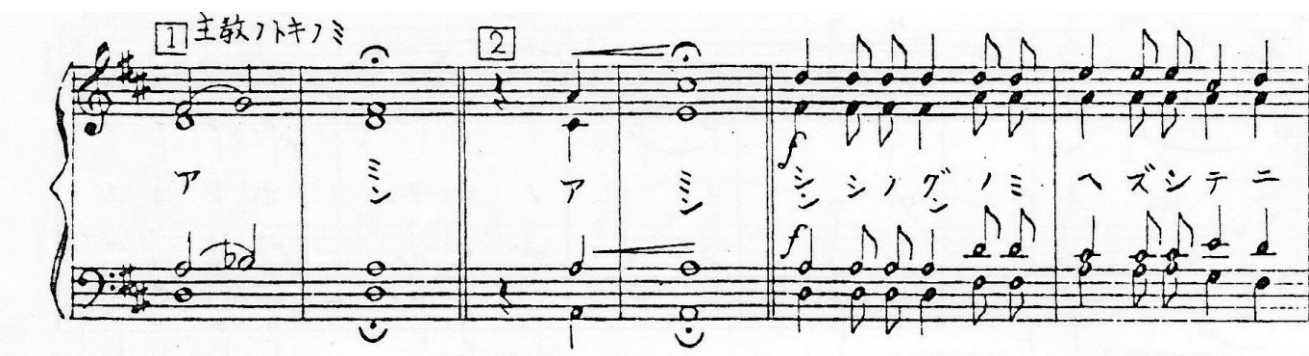
(詠) アミン ①

ポティールを持って

主教 願くは、主神はその国において常に記憶せらるる(某)記憶せん、今も何時も世世に、

主教 願くは主神はその国において爾衆正教のハリストティアニン等を常に記憶せん、今も何時も世世に、

(詠) アミン ②





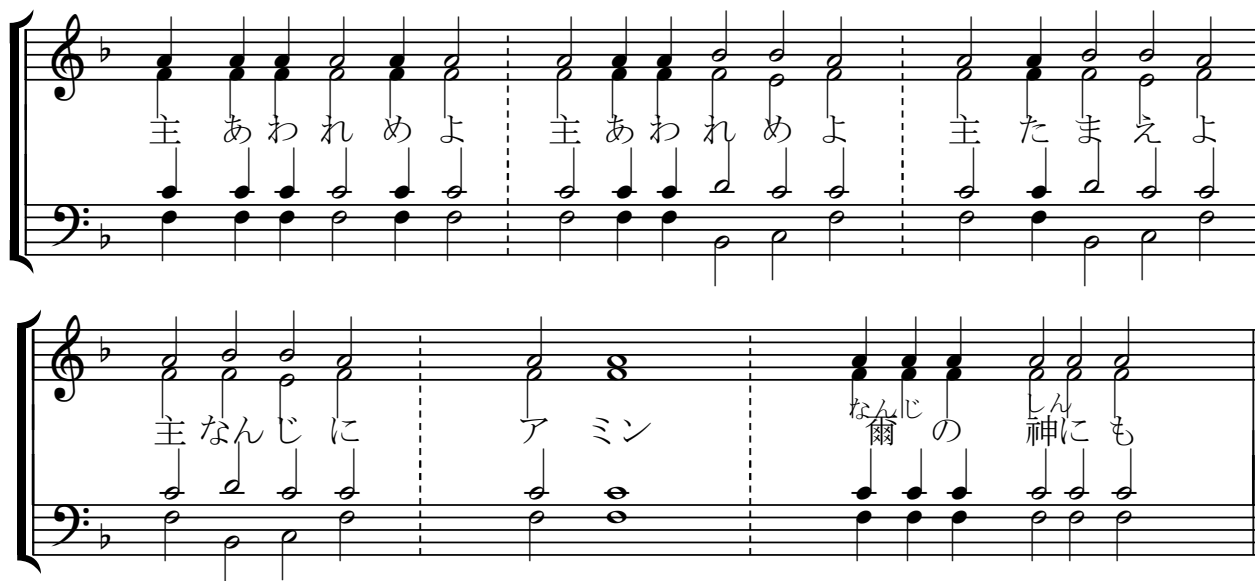
主教はディキリ・トリキリで信徒を祝福、祝福にあわせて「イスポラ」を歌う。**そのままの調で**



(連祷でへ長調にとりなおす)

[増連禱]

輔祭 我等主の前に我が祈りを増し加へん、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 献げたる尊き祭品の為に主に祈らん、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 子の聖堂及び信と慎みと神を畏るる心とを以て此に来たるものの為に主に祈らん、
 輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に禱らん、
 輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を佑け救ひ憐み護れよ、
 輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
 輔祭 平安の神使、正しき教導師、吾が霊体の守護者を賜はんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
 輔祭 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、
 輔祭 我等の霊に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む、
 輔祭 我等の生命の余日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、
 輔祭 我等の生命の終が「ハリストシアニシ」に適ひ、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの
 畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜はんことを求む、
 輔祭 至聖、至潔にして、至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと諸聖人とを
 記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て並に悉くの我等の生命を以てハリストス神に
 委託せん、 (詠) 主爾に、
 司祭 爾の独生子慈憐に因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神^o と偕に崇め讃め
 らる、今も何時も世に、 (詠) アミン
 輔祭 衆人に平安 (詠) 爾の神^o にも



[安和の接吻]

輔祭 我等、互に相愛すべし、同心にして承け認めんが為なり、



[信 経] 単音で、全員で歌う

輔祭 門、門、敬みて聴くべし、

全員 我信ず、一の神・父 全能者、天と地、見ゆると見えざる萬物を造りし主を。

又信ず、一の主イイスス・ハリストス 神の獨生の子、萬世の前に父より生れ、光よりの光、真の神よりの真の神、生れし者にて造られしに非ず、

父と一体にして萬物彼に造られ、我等人人の為、又我等の救いのために天より降り、聖神及び童貞女マリヤより身を取り人となり、我等のために、ポンティ・ピラトの時 十字架に釘うたれ、苦しみを受け葬むられ、第三日に聖書にかないて復活し、天に升起、父の右に坐し、光栄を顕して 生ける者と死せし者とを 審判するためにまた来り、その国終りなからんを。

又信ず、聖神・主・生命を施す者、父より出で、父及び子と共に拝まれ讃められ、預言者を以てかつて言いしを。

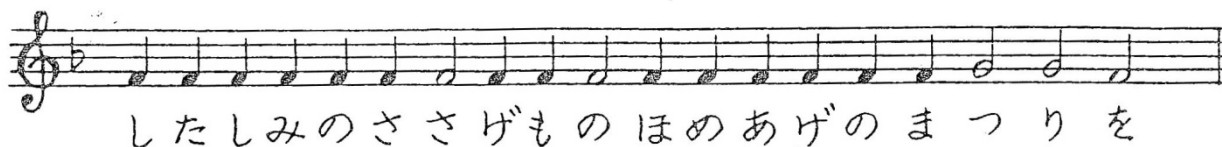
又信ず、一の聖なる公なる使徒の教会を。

我認む、一の洗礼 以て罪の赦しを得るを。

我望む、死者の復活、並に来世の生命を、「アミン」。

[平和の憐れみ(親しみの捧げもの)]単音で、全員で歌う

輔祭 正しく立ち畏れて立ち、敬みて安和にして聖なる献物を奉らん、



主教ディキリ・トリキリで衆人を祝福

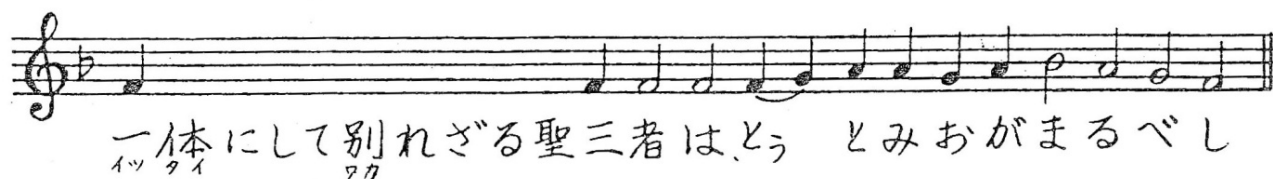
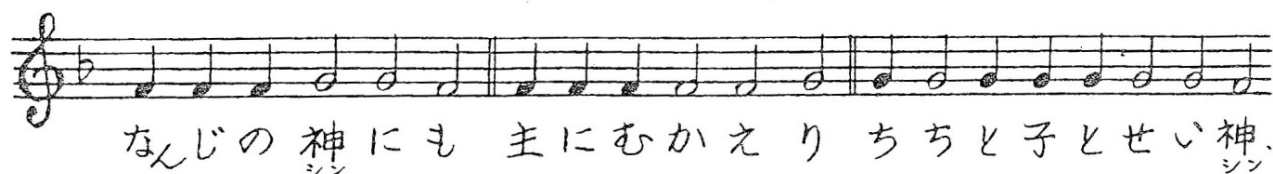
主教 願くは我が主イイス・ハリストスの恩、神父の慈み聖神の親みは、爾衆人と偕に在らんことを

(詠) 爾の神にも

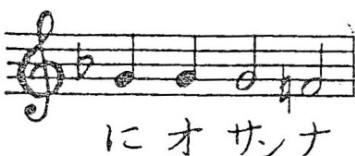
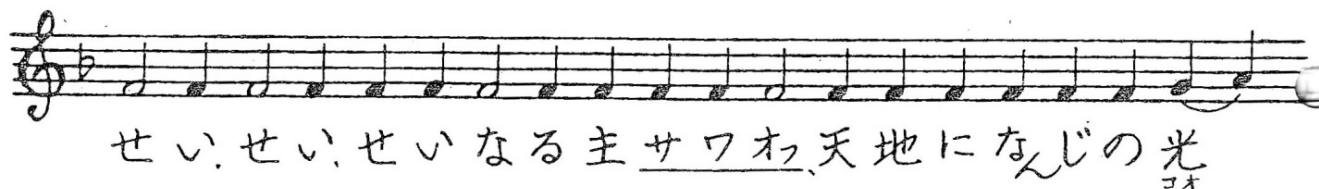
主教 心上に向ふべし、

(詠) 主に向かへり、

主教 主に感謝すべし



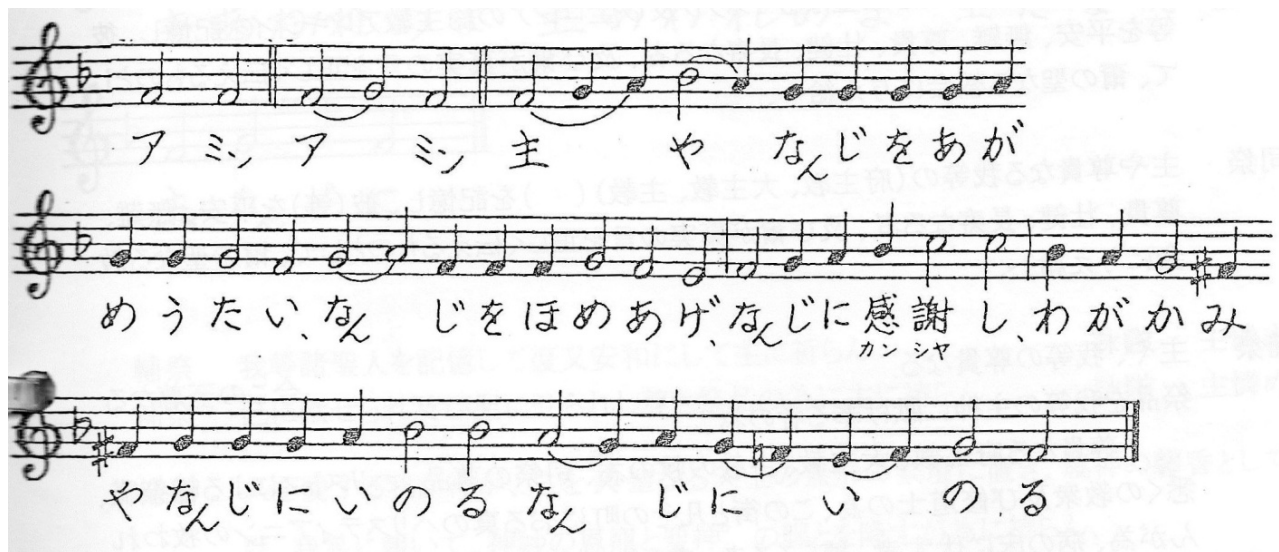
主教 凱歌を歌ひ、よび叫びて曰く、



主教 取りて食へ、是我が体、爾等の為に擘かるる者、罪の赦を得るを致す。(詠) アミン

主教 皆之を飲め、之我の新約の血、爾等及び衆くの人々の為に流さるる者、罪の赦しを得るを致す、
(詠) アミン

主教 爾の賜を、爾の諸僕より、衆の爲一切の爲に爾に献りて、



主教 特に至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女・永貞童女マリヤの爲、

No. 2 常に福い

ホルトニャンスキー作曲
デ・リウフスキー訳



さいわいな りと とのう るはま こと にあたれ り

ヘルビム よりとう とくセラヒム にならびな くさか え

みさおをやぶらずして かみことば を生み し

じ つの生 神女たるなんじを あがめほ むなんじ

を あがめほ む

長輔祭 万民をも

(詠) 万民をも

主教 主や、殊も教会を司る至聖なるモスクワ及び全ロシアの総主教 を記憶し、彼等を平安、無難、尊貴、壮健、長寿なる者、及び爾が真実の言を正しく伝えるものとして、爾の聖なる教会に与え給へ、

司祭 主や尊貴なる我等の(府主教、大主教、主教)()を記憶し、彼(等)を平安、無難、尊貴、壮健、長寿なる者、及び爾が真実の言を正しく伝えるものとして、爾の聖なる教会に与え給へ、

輔祭 主や、我等の尊貴なる東京の大主教及び全日本の府主教ダニイル、今この至尊なる祭品を我等の主神に献げ奉る者の為、至聖なるモスクワ及び全ロシアの総主教アレキシイ、尊貴なる府主教、大主教、主教の救の為、司祭の尊品、ハリストスによる輔祭職、悉くの教衆及び修道士の為、この街と凡その町における真のハリストスに救われんが為、病の床に伏す者、縛らるる者、虜となりし者のまぬかれんが為、遠く祖国を離れて異郷に抑留せられたる者の解放せられんが為、今この聖堂に立ちて祈る衆兄弟の救の為、衆人の為、一切の為、

(詠) 万民をも

主教 並びに我等に口を一にし心を一にして、爾父と子と聖神の至尊至厳の名を讃栄讃頌するを賜へ、今も何時世世に、

(詠) アミン

主教 願くは大なる神、我が救主イイス・ハリストスの憐みは、爾衆人と偕に在らんことを

(詠) 爾の神にも



[増連禱]

輔祭 我等諸聖人を記憶して復又安和にして主に祈らん

(詠) 主憐めよ

輔祭 已に献ぜられ及び聖にせられし尊き祭品の為に主に祷らん、

輔祭 人を愛する我が神が、之を其の聖なる天上の無形の祭壇に置き、屬神の馨香として享け、我等に報いて、神妙の恩寵と聖神^oの賜とを降すが為に祷らん、

輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に祷らん、

輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、

輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、

(詠) 主賜へよ

輔祭 平安の神使、正しき教導師、吾が霊体の守護者を賜はんことを主に求む、

輔祭 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、

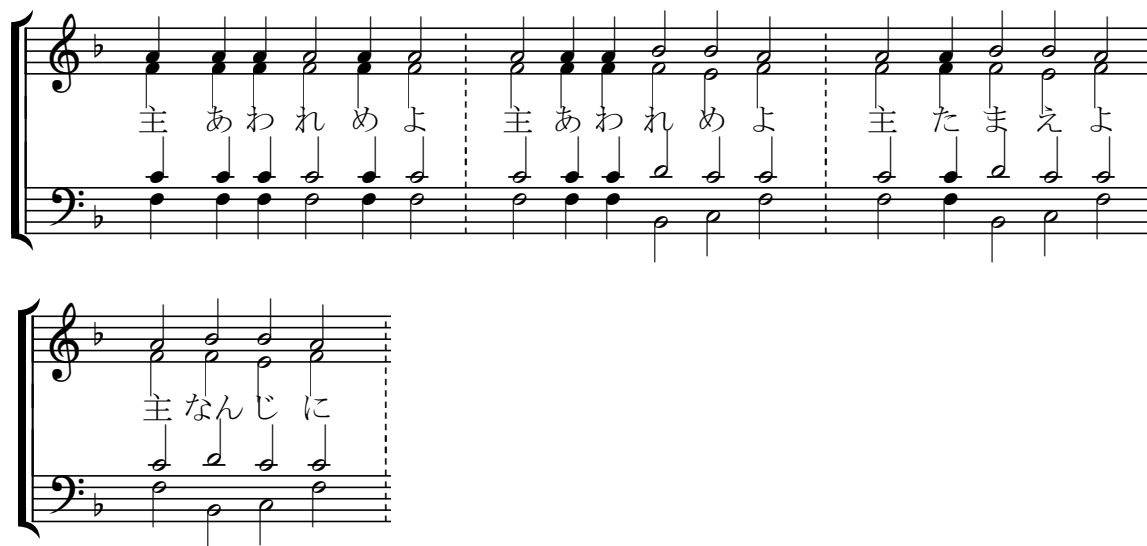
輔祭 我等の霊に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む、

輔祭 我等の生命の余日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、

輔祭 我等の生命の終が「ハリストスに」に適ひ、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜はんことを求む、

輔祭 信の同一と聖神の体合とを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、
(詠) 主爾に

主教 主宰や、我等に、勇を以て、罪を獲ずして、敢て爾天の神・父をよびて言ふを賜へ、



[天主經] 全員で歌う、単音

全員 天に在す我等の父や、
願わくは爾^{なんじ}の名は聖とせられ、
爾^{なんじ}の国は来たり、
爾^{なんじ}の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、
我が日用の糧^{かて}を 今日我等に与え給え、
我等に 債^{おいめ}ある者を我等免すが如く、我等の 債^{おいめ}を免し給え、
我等を 誘^{いざない}に導かず、なお我等を凶悪より救い給え、

主教 蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、(詠) アミン

主教 衆人に平安 (詠) 爾の神にも

輔祭 爾等の首を主に屈めよ、(詠) 主爾に、

主教 爾が独生子の恩寵と慈憐と仁愛とに因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に讃揚せらる今も何時も世世に、

(詠) アミン



輔祭 謹みて聴くべし

主教 聖なる物は聖なる人に



聖なるは ただひとり、主なるは ただ ひ と り

かみ ちち こうえいあらわ
神・父の 光栄を顕す イイスス・ハリストス なり アミン

[領聖詞]

(成聖の) 主よ、我爾が居るところの室と爾が光栄の住所の処とを愛せり、「アリルイヤ」

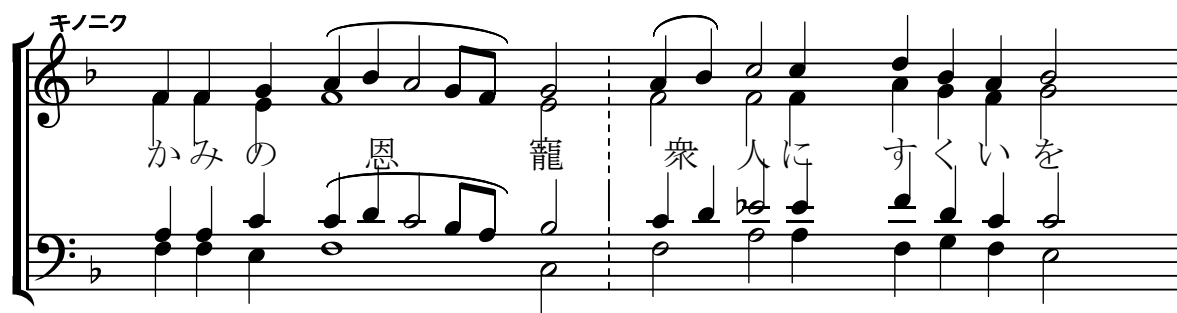


主よ われ なんじが 居 ると こ ろ の し つ と

なん じが 光 え い の す ま い を あ い せ り

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

(神現の) 神の恩寵、衆人に救を施す者は現れたり。「アリルイヤ」



かみ の 恩 寵 衆 人 に す く い を



〔主日の領聖詞(8調)〕 楽譜次ページ 148聖詠を誦読し、1句ごとに領聖詞を繰り返し歌う。

〔148聖詠〕★子供たちが句を誦経

てん しゅ ほ あ いとたか かれ ほ あ
天より主を讃め揚げよ、至高きに彼を讃め揚げよ。

ことごと てん し かれ ほ あ ことごと ぐん かれ ほ あ
その 悉くの天使よ、彼を讃め揚げよ、その 悉くの軍よ、彼を讃め揚げよ。

ひ つき かれ ほ あ ことごと ひか ほし かれ ほ あ
日と月よ、彼を讃め揚げよ、 悉くの光る星よ、彼を讃め揚げよ。

しよてん てん てん かれ ほ あ
諸天の天と天より上なる水よ、彼を讃め揚げよ。

しゅ な ほ あ かれ い な めい つく
主の名を讃め揚ぐべし、けだし彼言いたれば、すなわち成り、命じたれば、すなわち造られ

たり、彼はこれを立てて世々に至らしめ、則を与えてこれを踰えざらしめん。

ち しゅ ほ あ おおうお ことごと ふち ひ あられ しゅ ほ あ
地より主を讃め揚げよ、大魚と 悉くの淵、火と霰 (は主を讃め揚げよ)

ゆき きり しゅ したが ぼうふう しゅ ほ あ
雪と霧、主のことばに従う暴風 (は主を讃め揚げよ)、

やま ことごと おか くだもの ことごと はこうぼく しゅ ほ あ
山と 悉くの陵、果物の樹と 悉くの柏香木 (は主を讃め揚げよ)、

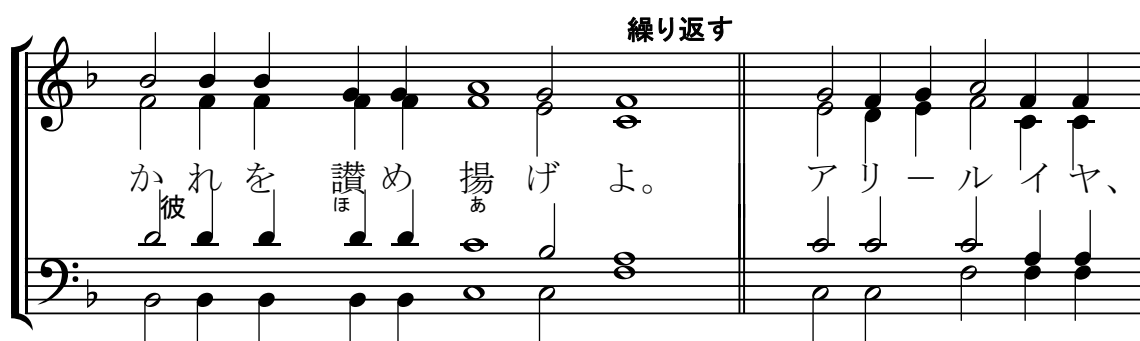
やじゅう もろもろ かちく は もの と とり しゅ ほ あ
野獣と諸々の家畜、匍う物と飛ぶ鳥 (は主を讃め揚げよ)

ち しよおう ばんみん ぼくはく ち しよゆうし しゅ ほ あ
地の諸王と万民、牧伯と地の諸有司 (は主を讃め揚げよ)、

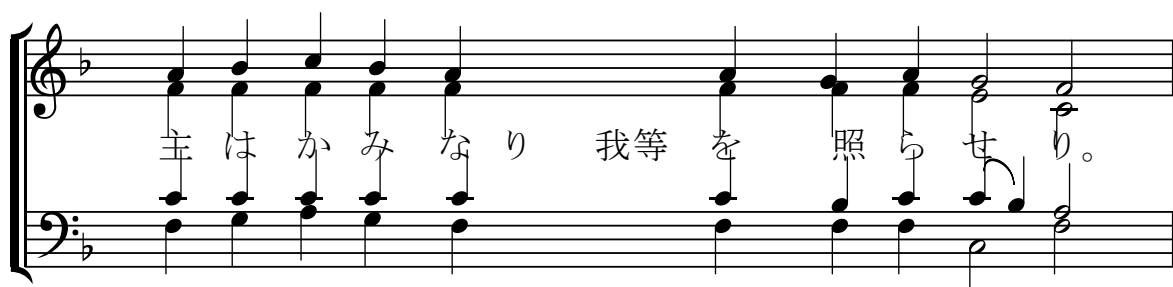
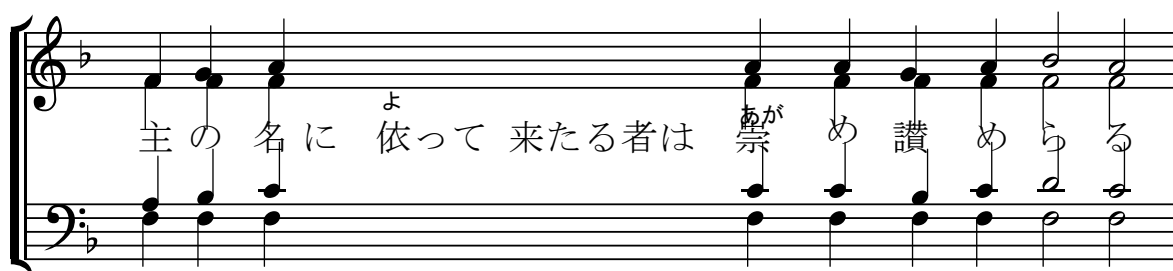
しようねん しよじよ おきな わらべ しゅ ほ あ
少年と処女、翁と童は、主の名を讃め揚ぐべし、

けだし、ただその名は高く挙げられ、その光栄は天地に遍し。

かれ たみ つの たか しよせいじん しよし かれ した たみ さかえ たか
 彼はその民の角を高くし、その諸聖人、イズライリの諸子、彼に親しき民の栄を高く
 せり。



輔祭 神を畏るる心と信とを以て近づき来たれ、



[領聖祝文]

主や、我信じ且承け認めて、爾を実にハリストス生活の神の子、罪人を救うが為に世に
来たりし者となす、衆罪人のうち我第一なり、また信ず、此は乃ち爾が至浄の体、此は
乃ち爾が至尊の血なりと、故に爾に祈る、我を憐み、我が自由と自由ならずして、言と
行いにて、知ると知らずして、犯しし諸罪を赦し給へ、並びに我に定罪なく、爾が至上
なる機密を領けて、罪の赦しと永生を得るを致させ給へ、「アミン」

神の子や、今我を爾が機密の筵に與る者として容れ給へ、蓋我爾の仇に機密を告げ
ざらん、又、爾にイウダの如き接吻を為さざらん、乃ち右盜の如く爾を承け認めて
曰ふ、主や爾の国に於いて我を記憶せよ、と。

主や祈る爾の聖なる機密を領くるは、我が為に審案或いは定罪とならず、乃ち霊体の醫
しとならんことを。アミン

[領聖]

Nina H. 編曲



主教 神や、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業に福を降せ、

領聖が終わる。主教祝福。「イスボラ」を歌う。



続いて「すでに真の光を見」を歌う

すでに まこと
既に 真の ひかりを見 天の 聖 神 を 受け

正しき * 教えを得て わかれざる 聖なる者をおがむ

* 信

彼 我等を 救いたまえば な り

司祭 今も何時も世に、

アミン 主や、爾の光栄を 歌わ—んに 讃め歌を以て 我が口に

満たしめ たま え いのち ほどこ きみつ
生命を 施す 聖なる 爾の 機密を受くる を



輔祭 謹みて立て、神聖、至浄、不死にして生命を施す天上の畏るべきハリストスの聖機密を領けて、
宜しく主に感謝すべし、

輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ、主憐めよ

輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、並
に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に

主教 蓋爾は我等の成聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神^o に献ず、今も何時も世世に、

(詠) アミン

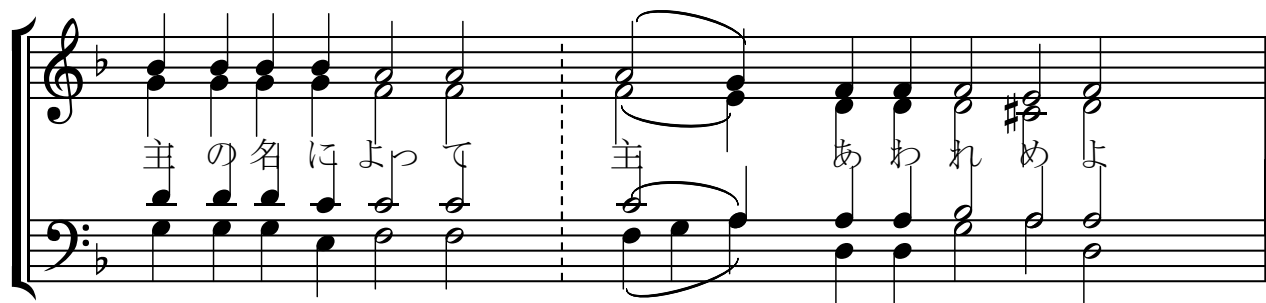


主教 平安にして出づべし、

(詠) 主の名に因りて

輔祭 主に祷らん、

(詠) 主憐めよ



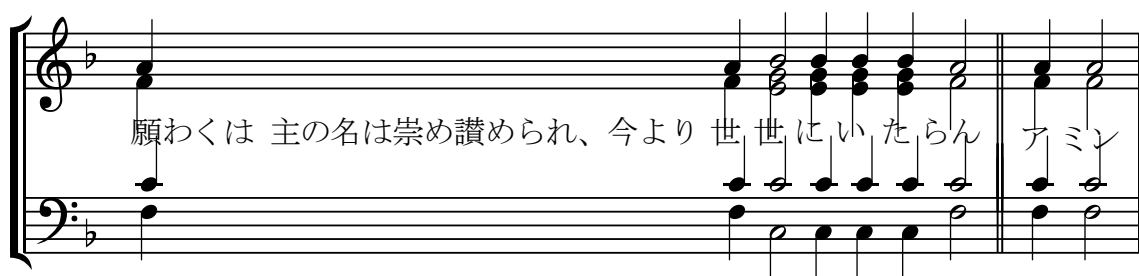
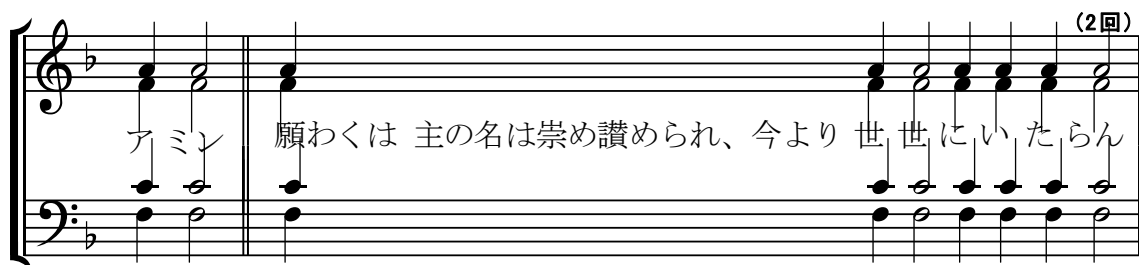
司祭 [升壇外の祝文]

爾を讃揚する者に福を降し、及び爾を恃む者を聖にする主や、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業
に福を降し、爾が教会の充滿を守り、爾が堂の美なるを愛する者を聖にせよ、爾が神聖の力を

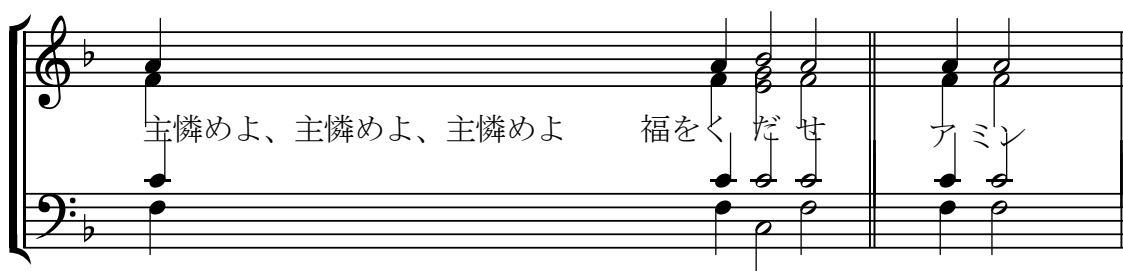
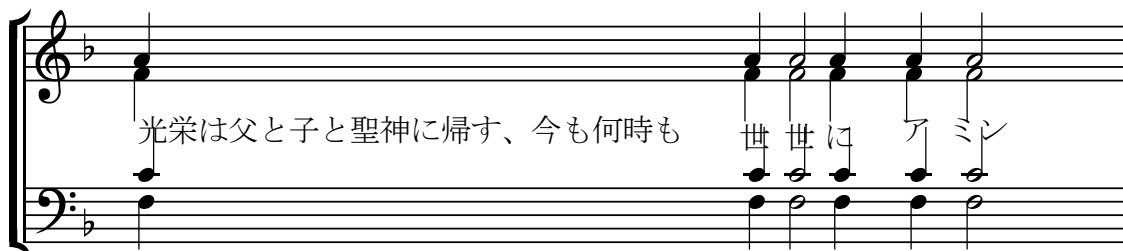
以て彼等を光榮し、及び我等爾を恃む者を遺すなかれ、爾の世界と爾の諸教会と諸司祭と、我國の天皇及び国を司る者、及び爾の衆人為に平安を賜へ、蓋凡その善なる施し、凡その全備なる賜は、上より爾光明の父より降るなり、我等光榮感謝伏拝を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

主教 願くは主の降福は、その恩寵と仁愛とに因りて常に爾等に在らん、今も何時も世世に、

(詠)「アミン」



主教 ハリストス神我等の恃みや、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す、



主教 [発放詞] 死より復活せしハリストス我等の眞の神は、その至浄なる母、光榮にして讃美たる聖使徒、我等の聖神父コンスタンティノポリの大主教金ロイオアン、(当日の聖人)及び諸聖人の祈祷に因りて我等を憐み救はん、彼は善にして人を愛する主なればなり、

(詠) アミン

[萬寿詞]



アミシ か み や 我が国の 天 皇 及び国を 司 ど る も の



我等の府主教ダニイル、及び 主教セラ フィム 及び悉くの正教の



ハリスティアニン 等 を いくとせにも ま も り た ま え

いくとせも？

いくとせも

Handwritten musical score for the song "いくとせも" (Iku to se mo). The score is written on three systems of staves, each containing a vocal line and a piano accompaniment line. The lyrics are written below the vocal line.

System 1:

い く と せ も い く と せ も

System 2:

い く と せ も い く と せ も

System 3:

い く と せ も い く と せ も

ム、ガ ヤ レ タ

カスタルスキー

Handwritten musical score for the first system. It consists of three staves. The top staff is in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a 3/4 time signature. The middle staff is in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a 3/4 time signature. The bottom staff is in bass clef with a key signature of one sharp (F#) and a 3/4 time signature. The lyrics are written below the staves.

ム、ガ ヤ レ タ ム、ガ ヤ レ — タ

ム、ガ ヤ レ タ ム、ガ ヤ レ — タ

Handwritten musical score for the second system. It consists of three staves. The top staff is in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a 3/4 time signature. The middle staff is in treble clef with a key signature of one sharp (F#) and a 3/4 time signature. The bottom staff is in bass clef with a key signature of one sharp (F#) and a 3/4 time signature. The lyrics are written below the staves.

ム、 — — — ガ ヤ ム、ガ ヤ レ — — — タ

ム、 — — — ガ ヤ ム、ガ ヤ レ — — — タ

Handwritten musical score for a song in 3/4 time. The score is divided into four systems, each with a treble and bass staff. The lyrics are written in Japanese.

System 1:
 Treble: ム, がヤ ム, がヤ レタ レタ
 Bass: ム, がヤ レタ レタ

System 2:
 Treble: ム, がヤ レタ ム, レタ レタ ム,
 Bass: ム, がヤ レタ

System 3:
 Treble: がヤ レタ ム, がヤ レタ ム, がヤ
 Bass: ム, がヤ レタ

System 4:
 Treble: ム, がヤ レタ
 Bass: ム, がヤ レタ

主教マンティアを着装し退堂

主教退堂の時「トンデスポティン」を歌う。

トン・デスポティン

トン デス ポ ティン ケ ア ヒ エ レ ・ ア イ

モン キ リ エ フイ ラ

テ イ ス ポ ラ エ ティ イ ス ポ ラ エ

ティ イ ス ポ ラ エ ティ デ ス ポ タ